

水が引いたらすぐに行う10のこと

かねとう じゅんこ

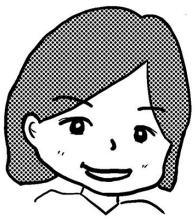
初めまして、金藤純子です。私は平成30年西日本豪雨時、岡山県真備町にて2軒全壊した経験があります。その私が行った被災3日目の活動記録を時系列で公開します。地震の時とはまた違う、浸水時の行動です。

10個の活動内容を「自分にしかできないこと」「周りの人に手伝ってほしいこと」「どちらも重なること」の3つに分けました。

自分にしかできないこと

被災してから、親戚宅から毎日自宅に戻り、片付けし、また避難所に戻り寝るという日々が毎日毎日続きました。

長期戦だと思って無理しすぎず、いつも以上に健康管理に目を向けながら再建に向かってください。



それでは
はじめます!!

③貴重品を探す

本人にしかわからない、残した貴重品を探し、片付けがはじまる前に自己保管する。作業が終わったら、盗難防止のため、施錠する。

貴重品の例

現金・通帳・カード・保険証・運転免許証・印鑑・家の権利書・保険契約書、宝石類など

⑤食べ物の確保

飲み物と、おにぎりなど調理なしで食べられるものを。当たり前だが被災地のお店も被災し何も買えない。自動販売機も重ならない。

⑥被災家屋の外中の写真を撮る

罹災証明書を役場でもらうときに必要。全壊・半壊の認定のため、スマホなどでたくさん撮る。

⑧カーディーラーに代車の手配を頼む

⑨罹災証明・減税手続きを役所に取りに行く

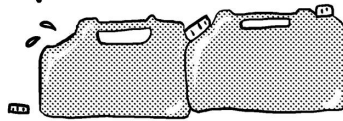
どちらも重なること

入浴・毛布・休む場所・数日分の着替えの確保です。

現場はガラスが割れ、釘などもたくさんあります。臭いはひどく、トイレもありません。自分の身を守る服装と持ち物は最低限お願いします。

①水をポリタンクに入れ持っていく

洗うためのポリタンクを出来るだけ多数、はじめから水を入れて現地へ持っていく。あるいは持ってきてもらう。



④簡易トイレ・トイレトペーパー・ティッシュの確保

あるだけで助かった。当たり前だが、被災地の公衆トイレも汚泥がつまり使えない。キャンプで使う小さなテントを用意しあげれば、その中で女性はバケツと簡易トイレで用を足せる。消毒、除菌シートも確保も忘れずに。

周りの人に手伝ってほしいこと

災害ボランティアセンターが立ち上がったら、

- ・泥の掻き出し
- ・床剥がし
- ・壁剥がし

を頼み、ボランティアに力を借りましょう。

②被災地周辺で買い物を頼む

必要物資を買ってきてほしい。

買い物をする時間、ないんです。被災地周辺では片付けに必要な道具が品薄・品切れ、入手困難です。電器店も届かない。買ってきてくれたのは大変ありがたかった。

【最優先】 水ポリタンク・大バケツ・大タライ・みしゃく

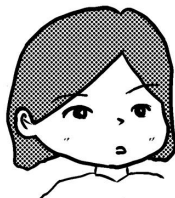
【使う】 スコップ（シャベル）・デッキブラシ・長靴・たわし・ゴム手袋・軍手・防塵マスク・防塵メガネ・手ぬぐい・ぞうきん・新聞・フチマチ・スマホ充電器・ゴミ袋・ダンボール・カムテーパー・マジック・除菌シート

⑤食べ物の確保

飲み物と、おにぎりなど調理なしで食べられるものを支援者も持参。当たり前だが、被災地のお店も被災しており何も買えない。自動販売機も動かない。

⑦家財を家屋から庭に出す

畳・ベッド・ソファ・家電・仏壇・タンスなどは水を吸い、異常な重さとなる。家の窓は開け、おにぎりなど調理なしで食べられるものを支援者も持参。当たり前だが、被災地のお店も被災しており何も買えない。自動販売機も動かない。そのために家の中の濡れた家財をいっしょに全外に出す。



現地入りは自衛隊や消防、復旧のための特種車両が最優先。被災地に関係のない車は迂回をお願いします。大きな渋滞が発生します。30分で行けるところが、渋滞で2〜3時間もかかりました。

親戚・会社の方々の支援で持ち出しました。たくさんの人手が必要でした。

⑩写真・動画を手元に残す

家族の思い出などの写真・動画類はなるべく捨てずに残してあげる。1枚1枚早く乾かせば、残すことができます。

古い写真はバクテリアを含む汚水で画像が溶けていた。1袋回りにしてしまい、放置する時間が長くカビが生え、とても辛かった。

写真類・手紙類・ビデオのSDカードなどを、ボランティアさんが捨ててしまう、ということが起きています。

私も、子供の運動会や旅行の動画がほぼ全て、片付けの時に、捨てられてしまいました。大ショック。

クレームとして、言えないことなので、周りの人にこそ知っておいて欲しいこと、です。

